

成果の説明書

(氏名) 関根 雅則	(学部) 経済学部
1 重要事項	
【研究面】	
<p>昨年度は、リモートワークが普及する中での組織的知識創造に関わる基礎的研究を理論面から行ったが、今年度は、引き続き理論的研究を行うと同時に、複数の資料を調査することで、今日、実際の企業が組織的知識創造にどう対応しているのかについて研究した。まず仮説としては「リモートワークでは、真の意味での知識共有ないし知識創造に限界が存在する」とした。つまり、野中郁次郎氏が提示した「SECIモデル」に従えば、特に暗黙知を暗黙知として共有する「共同化」や暗黙知を形式知化する「表出化」は、現場で対面でコミュニケーションをとることでしか成立しないということである。こうした仮説を前提として、上述したように、各種メディア等を通じて実際の企業行動を調査した。そうしたところ、複数の企業が知識を創造するためにリモートワークを止め、従業員が会社に出勤する従前のかたちに戻していることがわかった。あるいは、リモートワークを残しつつも曜日によっては従業員に出勤を要求する企業も少なくなかった。これらの事実は、やはり、組織的に知識を共有あるいは創造するには対面でのコミュニケーションが必要であることを示唆している。ただし、仕事の内容が対面でのコミュニケーションの必要性を左右することも事実である。このことについてはさらなる研究が必要であると思われるので、引き続き検討していきたい。</p>	
【教育面】	
(1) 学部講義	
<p>WebClass を通じて予め講義資料をアップすることにより講義の展開が事前に把握できるようにした。その講義資料には、あえて空欄を多く設けることにより、学生がメモを取らなければならないようにした。自分自身でメモを取ることで、より知識が深まると同時に、飽きずに講義を受けられると考えたからである。また、毎回の講義でリアクションペーパーを提出させた。学生の講義に対する理解が深まると同時に、学生の講義の理解度を把握することができると考えたからである。</p>	
(2) 演習	
①基礎演習：学生が、「戦略論」等の専門に偏らず、幅広い経営学の知識を得られるように工夫した。(例年通り)	
②演習Ⅰ：いわゆる教科書だけでなく、ビジネス専門誌を多用することにより、学生が実存企業の経営戦略を理解できるよう工夫した。(例年通り)	
③演習Ⅱ：学生が質の高い卒業論文を作成できるように、学術論文の書き方や理論の内容について適宜アドバイスを与えた。(例年通り)	
2 その他の事項	
【学外での活動】	
①JA 栃木中央会からの依頼により、「職員資格認証研修会（特級）」において、「経営戦略論」の講義を行った。	
②JA 栃木中央会からの依頼により、「中核人材育成研修会」において、「経営戦略（基礎理論）」というテーマで講義した。	
③JA 群馬中央会からの依頼により、「戦略型中核人材育成研修会」において、「経営戦略の基礎理論」というテーマで講義した。	
3 次年度以降の計画・抱負	
【研究面】	

今年度まで続けてきた「リモートワーク普及下における組織的知識創造」に関わる研究に一区切りつけたい。そして、イノベーションに関わる多くの研究課題を抱えているので、まずはその理論的研究に入りたい。

【教育面】

例年通り、学生が経営戦略やイノベーションについて基礎から着実に理解できるよう、双方向型の講義ないし演習を实践したい。

【その他】

今年度も、JA 栃木中央会および JA 群馬中央会から「経営戦略」に関わる講義を依頼されているのでしっかり対応したい。